

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第9回

関東ブロック

鉾山プロレタリアート

鉾山プロレタリアート

トの過酷な働かされ方が紹介されています。

司会：前号はその他の労働部門に工場制度がどれほど深く入り込むことになったのかを学びました。今月号は工業プロレタリアートと密接な関係がある鉾山プロレタリアートを学びます。

この章はページ数が多いので、前半と後半に分けて学んでいきます。レポーターは埼玉県協の宮澤さんです。それでは宮澤さんどうぞ。

肺は冒され…

宮澤：前半部分は鉾山プロレタリアー

産業革命が起きて、大工業の生産性を上げる為に、今まで家内工業や手工業で生活していた人が、大工業プロレタリアートとして吸収され、鉾山プロレタリアートも大工業出現で原料を発掘、供給するために大勢必要とされました。イギリスは鉾山で大量に鉄、銅、錫^{すず}など、鉾山資源が豊富に産出されていました。エンゲルスは、コーンウォールの鉱業では、1万9000人の男と1万1000人の女と子どもが一部は坑内で、一部は坑外で働いていたと、書いています。

鉾山そのものの内部では、ほとんど男と12歳以上の少年だけが働いている。さらにパラム博士は、「肺は冒され、心臓は動きが妨げられ、消化器は弱められ、坑内で働く男は坑外で働く女よりも発育していない、多数の者が結核で若死にし、35歳から45歳の間で働けなくなってしまう」と報告しています。

一方、オールストン・ムアの鉾山では「児童雇用委員会報告」の中のミッチェル委員の報告で、「19歳になって初めて立坑に入りだす」と、コーンウォールの鉱業が12歳から入りだすのに比べ、肉体的には楽なのかと思いまし

◆みんなの学習講座



学習会で真剣に討論をする
埼玉県協の仲間たち

た。しかし、「大多数の者は40歳から50歳の間で死ぬ」という医師の証言は同じです。

炭鉱と鉱山では、4歳、5歳、7歳の子どもも、採掘した鉱石を運搬し、採掘場を仕切っている出入り口の開け閉めで働いていることにも驚かされます。

通常の労働時間は11時間ないし12時間ですがそれ以上になることもしばしばあり、全労働者が24時間も連続

して地下にもぐって働き、それが36時間に上ることも珍しくない実態になっています。そういった状況の中で1844年9月28日にハズウェル炭鉱で坑内ガス爆発があり、96人が死にました。その検死陪審員が会社の息の掛かった者で、事故の原因は労働者の責任にされブルジョアの責任も無く処理され、悲惨な働かされ方でした。住むところを、コテージと言っています。が、社宅みたいな形で労働者を囲っていました。ここまでが鉱山プロレタリアートの前半の説明です。

12歳からプロレタリアートに

司会：宮澤さんから、「鉱山プロレタリアート」の内容について説明がありました。12歳以上の労働者が中心になって鉱山で働いている、重労働と、過労が原因の喘息と心臓をわずらって、多数が若死にすると説明がありました。

皆さん、どう思いましたか？

質問、意見を出していただきたいと思っています。

勝田：工業の発展が鉱山で原料を作る為に、子どもが、プロレタリアになっていったのは、どういう人たちですか？

宮澤：食っていけなくなる。だから、鉱山へ働きにいかねばならない。結局家計が苦しいので子どもに働かせる状況が生まれてきたと思います。

矢島：坑内作業は重労働で、40歳になると労働者は老年期にさしかかり、働けなくなる。

45歳を過ぎて働くのは極めてまれです。12歳以上の子どもさん、青年の人たちが仕事に出るわけです。だから、場合によっては、失業した両親が極めて若い我が子に養ってもらうことも出てくる。働き方も、立坑での働き方は直立など考えられないので、四つん這いになって、肘で抑えて、そし

て、明かりを取って、作業をする。その為に関節炎を起こすと書いてあります。じゃあ、そんなところ行かなければいいじゃないかと、言っても、鉾山だから、農業の田園地帯は少ないでしょう。そこでは鉾山で仕事するしかないわけです。主要産業は鉾山なのです。様々な事情がある人たちが中心になって働いているというわけです。

平均寿命は40歳から50歳

勝田：コーンウォールでは立坑に入って、作業するのは12歳から始められるとあり、それに対してオールストン・ムアでは19歳になって初めて立坑に入りだすとありますが、同じ時代に何故働く場所によって扱われ方が違うのでしょうか。コーンウォールでは多数の者が結核で若死にし、35歳から45歳で働けなくなると報告されています。オールストン・ムアでは、医師から大

多数の者が40歳から50歳の間に死ぬと報告されている。この違いは、立坑に入る年齢の差なのでしょう。

高原：まだ産業の初期で、他の鉾山の情報は、労働者には分からなかったのではないかな。

大切な事は、当時でもイギリスの労働者階級の平均寿命は19歳以上の男で57歳半である。そうすると北イングランドの坑夫寿命はその仕事によって平均10年縮まるということになる。過酷な労働がそうさせるのではないのでしょうか。

司会：矢島さんの説明でも、鉾山労働のゾツとする奴隷労働の実態があったと思います。更に、イギリス全体でまさにこの労働ほど多種多様な方法で命を奪う労働はない。炭鉱は多数のものとも恐るべき災害の発生現場であるとされています。命がどんどん奪われていたのです。他に疑問、感想がありますか。

岡本：当時は12歳が主力なのですか？眠ったまま両親に体を洗ってもらい、ベッドへ運んでもらう。帰宅途中に疲労で倒れ寝てしまうとある。子どもが中心で、親は働けなくて、帰ってきた子どもをそのまんまベッドに運ぶということですか？

勝田：その通りです。親も鉾山で働いていて体がボロボロになり、働き手が代わり子どもが働いていたのです。

岡本：今は、逆だよ、40、50は働き盛りです。

高原：地獄だなあ、平均寿命より10年も早く死んでしまうのだから。

人間らしい労働が奪われている。

勝田：コテージ制度というの、凄く汚い所で、トイレなんかむき出しと書いてあったけれど、それでも、住む場所なのですよ。4カ月続いたストライキは、炭鉱主は一週間で、4万人全員をコテージから追い出した、と書いてあります。まるで、現代の派遣切

◆みんなの学習講座



チリ・エスコンディダ鉱山労働者、2ヵ月間のストも辞さず
(2017年2月11日) チリは世界で最大の銅の生産国

りと同じです。

渋谷：今の、日本の労働者と、当時の労働者をどう見たらよいのかということであれば、いまの日本の労働者は確かに、個人的に見れば、いろいろな精神

面たとか、自殺が多いですから、死ぬ人が多いことは、それだけ今の日本の、資本家の攻撃というのがやっぱりするこい、自殺というのは相手の攻撃に、心が病んでしまつて生きる気力がなくなるといふことは、当時のイギリスと同じだということなのです。

勝田：私は正社員で働いたけど、日本の中では4割の人が非正規で働いているじゃないですか。その人達はダブルワークをしたり、すき間時間を使つて3つも仕事を掛け持ちしたり、長時間労働を低賃金が故にやらざる得ない状況だと思ふ。で、一方では労働貴族の様な分断があつて、今と当時は、きめ細かい支配が浸透している点がいまですが、労働者の労働が極限まで搾取されている点と同じだと思ふ。

小林：自分たちの働き方、働かされ方従つて、生き方、日常生活のあり方、賃金というのは家族を含めてだから、よりひどい状況が家族も大変なのだと

というのが分かりました。今も、当時のイギリスも、変わりません。

司会：皆さん、広い範囲から意見、感想が討論されました。引き続き活かして行く為に後半のレポート説明に入ります。後半では、労働組合の闘いぶりが報告されています。

それでは宮澤さんから引き続き説明を頂きます。どうぞ。

立ち上られ、労働者諸君

宮澤：はい、労働者の賃金は、現金でなくて現物給与が原則。石炭は自方で測られるが、賃金は「嵩(かさ)」で支払われます。樽を一杯にしなければ賃金も、貰えない。樽の中に一定量以上の粉炭が入っていると賃金を貰えないばかりか、罰金まで課されます。ブルジョアの恥知らずの搾取はそればかりではない。労働者は一年契約で雇われるが、その間に失業する事もある。

別のところで仕事を探すと職務怠慢の罰で6週間の踏み車にやられ、働けど石炭が掘れない。北部での賃金は一週間後払いとされています。治安判事は炭鉱主なのです。更に、1844年9月28日ハズウェル炭鉱での96人爆発死亡、『マイニング・ジャーナル』によると毎年1400人の命を奪っている炭鉱事故等、炭鉱は炭鉱主が炭鉱災害対策（換気対策・落盤対策・炭酸ガス対策）に金をかけない、手抜きによる責任をとらずに労働者へ過失責任を押し付けました。もともと、恐るべき災害の発生現場である怒りと恐れが力になって、ついに反抗精神が現れ、組合を結成しストライキを始めました。

ノーサンバランドとダラムの労働者は1843年、弁護士W・P・ロバーツを検事総長に任命し、1844年1月に『①支払いは高によってではなく重量によってなされること ②当局の監察官によって検査された普通の天秤

と分銅で重量をはかること ③雇用期間を半年とすること ④罰金制度は廃止し、実際の仕事量に対して支払うこと ⑤自分の炭鉱だけで働いている労働者に対する、少なくとも一週間に4日の労働、あるいは4日分の賃金の保障を義務付けること』の5項目の要求を宣言し、1844年3月1日から5カ月に亘った約4万人が参加したストライキが闘われました。最後はまだ、労働者運動が起きていないアイルランドやウェイルズのへき地から連れてこられたスト破りによって終息されました。

しかし、その後、団結すれば相当な力になることを知ったランカシャでは1万人の坑夫による組合が結成された。エンゲルスはこれを「1844年のストライキによってイングランドの全坑夫に与えられたのである」と大きく評価したのです。

そして、最後に「残された唯一の可

能な方策は暴力革命であり、それは必ず起こらずにはいけないであろう」と革命の必然性をあきらかにしたのです。以上で説明を終わります。

一人の要求から全体の要求へ

司会：宮澤さんから説明がありました。質問、感想、意見がありますか。

村上：私はアスベスト闘争を闘っています。会社はアスベストの危険性を分かっているのに使い続け被曝させ、命を奪ってききました。この本の炭鉱主も12歳からの子どもを使う、労働強化や低賃金で使うことがどうなるかわかっていて使う。同じなのだなと思います。

私はプロレタリアだから、雇用契約を切られないように、生きていかなくはならない。労働組合活動が必要だと思っています。

豊田：先ほどの鉱山のストライキは凄いですね。現在では、スト権投票や職

◆みんなの学習講座



当時の坑夫

場集会も開くけど、春闘の要求なんか私鉄総連が定昇2%のベア9900円、そんなもんなのです。これじゃ去年と同じじゃないですか。職場集会でもつと言えよと思うけど、みんなで団結して跳ね返す力が必要なのだけ。

勝田：だから、この時のどうしようもないようなヘトヘトになった中で、そ

こで立ち上がるというのは、何があるのだろうか。弁護士が死んでしまったかもしれないけど、そこに三池だったら、向坂塾があつたと聞くけど、イングラントではその時、病人が髪の毛を引つ張られてコテージから追い出されても、闘い続けたのは何があつたのだろうと、そこを知りたいです。

高原：一人でも自分が許せない要求を持っているかどうか？ それがないと労働組合に押し上げようとならない。

一人の要求を皆の要求にする為には、先ず一人から闘うのだけれど、組合に団結して「俺もそう思う」「俺もそうだ」という、もう一人をつくらないと。

そして、鉱山労働者が工業労働者と接触して影響を受けたように、他の産業労働者と接触し学ぶことによって視野が広がって闘いの条件が出てくるのです。

司会：高原さんが言った「一人の要求から全体の要求へ」この5項目の要求

が4万人の鉱山プロレタリアートを動かし、全鉱夫の4分の3をチャーチストにしたのです。

最後に、ページの末に「のこされた唯一の可能な方策は暴力革命であり、それは必ず起こらずにはいないであろう」とエンゲルスは、言っています、どう思いますか？

これを聞いて終了といたします。

高原：暴力革命というと、武力や武器による革命ととらえがちですが、労働者の圧倒的な力の暴力、団結でブルジョアジーを倒すのだから、平和革命であるし、暴力革命以外にないということになります。

司会：みなさん、お疲れ様でした。

次回は農業プロレタリアートです。農業プロレタリアートはどの様にして生まれたのか、何故貧困状態に陥ったのか、アイルランドからの移民はどう影響を受けたのかを学びます。